

5. 乳児喘息における痰中 Creola Body の臨床的意義

小児科学 (内分泌)

山田裕美, 吉原重美, 小野三佳, 阿部利夫,
有阪 治

【目的】 気道上皮傷害の指標となる痰中の Creola Body (CrB) を用いた乳児喘息の病態解明を考察する。

【対象・方法】 検討①一歳未満の呼気性喘鳴児を対象に痰を採取しCrBの有無, 退院後の喘息発作点数を検討した。検討②急性発作で入院した乳幼児および小児喘息児を対象に痰を採取し, CrBと気道炎症マーカーの関連性を検討した。

【結果】 検討①; 痰中CrBは高率に検出され, CrB陽性群の, 退院後1ヶ月間の喘息発作点数は, CrB陰性群と比較して有意に高値を示した。さらにCrB陽性群の80%が, その後気管支喘息と診断された。検討②; CrB陽性群の平均年齢は陰性群と比較して有意に低年齢であった。また, 痰中好酸球出現率は, 低年齢児で低率だった。さらにCrB陽性群において, 痰中IL-8および好中球エラスターゼは, 陰性群と比較して有意な高値を示し, IL-5やECPでは, 両群間で有意差を認めなかった。

【考察】 乳児喘鳴におけるCrBの存在は, その後の乳児喘息への進展を予測できる可能性が示唆された。また, 乳幼児の気道上皮剥離の病態には, 好中球性気道炎症が関与していると考えられた。

6. 小腸移植における小腸筋層内マクロファージ活性化の影響について

越谷病院 小児外科

田原和典, 池田 均

【目的】 ラット小腸移植モデルを用い, 筋層内マクロファージ (MP) の有無による移植後炎症反応の影響・違いについて検討した。

【方法】 MP抑制・非抑制群においてラット同系間小腸移植を行い, 移植後経時的に移植したグラフトを摘出し, real-time PCRによるサイトカイン, ケモカイン等の発現や小腸平滑筋収縮力等について各々比較した。

【結果】 MP抑制により, 炎症性因子発現減弱が認められた。また, MP活性化による白血球動員誘導も抑制され, 腸管運動低下も改善された。

【まとめ】 グラフト小腸に対する手術侵襲は, 移植後の炎症性反応を惹起させることが確認された。また, 小腸筋層内MPはこれらの炎症性反応に関与しており, このマクロファージを抑制することにより, 移植後の炎症性反応を制御できることが確認された。